

## 「ヒマラヤ国際映画祭TOKYO2008」報告書



NPO法人ヒマラヤ・アーカイブ・ジャパン 代表  
田中 邦彦

2009.01.25

### 概 観

- 主催：
  - ヒマラヤ・アーカイブ・ネーデルラント（オランダNGO）
  - ヒマラヤ・アーカイブ・ジャパン（任意団体〈当時〉／現NPO法人）
- 後援：
  - インド大使館 / オランダ王国大使館
- 協力：
  - アルパインツアーサービス株式会社 / ギャラリーE & S（ヒマラヤ関連グッズ） / ワンダーラスト（純オーガニックコットン衣類制作・販売）
- 開催期間：
  - 2008年10月31日～11月3日（4日間）
- 会場：
  - 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京 代々木）
- 上映作品本数：
  - [30作品](#)（外国作品（28）／日本（2））
- 観客：
  - 約400名（3日間／延べ人数）
- 外国人ゲスト：
  - \*ジョン・ヴェアハイム（『[ブータン：幸福への中道を行く](#)』プロデューサー）
  - \*テンジン・デミ（在日ブータン人女性）
- 関連イベント：
  - \*チベット仏教高僧アジャ・リンポチェによる講演：『仏教の観点から地球温暖化問題等を考える』
  - \*『[50人のチベット](#)』展（報道には現れない本当のチベットの姿を伝える50人の写真の展示）
- メディア取材：
  - [読売新聞](#) / 毎日新聞 / [The Japan Times](#)

## 詳細



東京において第二回目となる「ヒマラヤ国際映画祭」は、31日の関連イベント「[アジャ・リンポチェ](#)（チベット仏教高僧）の講演」で始まった。現在、アジャ氏はアメリカのインディアナ州在住だが、元はチベット

仏教最大の学僧であるツォンカバと縁の深い名利クンプム寺院の僧院長だ。今回、滞日スケジュールを調整し講演して頂けることになった。仏教の世界観からの温暖化問題の対処法など、通常の仏教講演には見られないユニークな内容だった。又、聴衆の質問に答える形で「チベット問題」にも言及し、「フリーチャイナ（中国に自由を）」の言葉を使い中国の民主化を望んだ。

翌1日より映画上映開始。一日（12時間半）を5セクションに分け、1セクションで平均2作品を上映した。PR不足、文化の日を含む休祝日に開かれた他の多くのイベントとの競合等の悪条件のため、前回（2006年）と比べて集客は今一つであった。しかしながら、観客の作品に対する満足度は高く、それが、本年4月の関西（京都・神戸）での開催に繋がっている。上映30作品の中で、特に、制作関係者が来日した『ブータン：幸福への中道を行く』、そして、3月に発生した「チベット騒乱」の影響もあり、『チベットへのキックオフ』、『チベット難民—世代を超えた闘い』に多くの観客が集まった。『ブータン』のジョン・ヴェアハイム氏（アメリカ人）は友人のブータン人女性テンジン・デミさんと共に作品上映後に「Q&A（質疑応答）」を行い、作品のテーマであ



るブータン国が提唱する「国民総幸福量」政策について補足説明して下さい。

映画祭を引き立てたのが、会場の展示の数々。



マンダラ、オーガニック Cotton の衣類、外国人写真家によるブータンの白黒写真... 中でも、50人の

日本人が写した多様なチベットの様相（「[50人のチベット](#)」展）に観客は高い関心を示していた。

映画祭の準備段階で予算不足を含む様々な問題に直面し開催が危ぶまれたが、有志の方々のご尽力により何とか実現することが出来た。改めて、心より感謝を申し上げたい。主催団体である「ヒマラヤ・アーカイブ・ジャパン」は映画祭閉幕後の12月、NPO法人となった。「ヒマラヤ国際映画祭」プロジェクトはこれからが本番です。一つ一つ課題を克服しながら、プロジェクトを着実に進めて参ります。

なお、ボランティアスタッフの塩田紗智子さんが、自身のブログ（英語）で「映画祭」の素晴らしいレポートを書いて下さった。ご一読頂ければと存じます。

\*[Casual Japanese Bystander](#)

